

令和元年度茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

開催日時	令和元年 8 月 20 日（火） 10 時 00 分 ～11 時 50 分
開催場所	茂原市役所 102 会議室
出席者	推進会議委員 8 名（所用のため欠席 6 名） 事務局：麻生企画財政部長、中村企画財政部次長兼企画政策課長、渡部企画政策課政策推進室長、麻生企画政策課副主査、大塚企画政策課主事、三神企画政策課主事 担当課：深山茂原市民体育館長、鶴岡商工観光課振興係長、大多和農政課副主査
会議次第	1. 開会 2. あいさつ 3. 議題 （1）総合戦略における平成 30 年度の効果検証について （2）平成 30 年度地方創生関連交付金の効果検証について （3）来年度以降の総合戦略について （4）その他 4. 閉会
会議要旨	3. 議題 （1）総合戦略における平成 30 年度の効果検証について 事務局から資料に基づき説明 【主な質疑応答】
委員	資料 1. 1 ページ、基本目標 1（2）③の商店街の活性化の推進で「商店街」とあるが、どの範囲を示しているのか。また、入れ込み客数はどう調査しているのか。
事務局	商店街とは、旧アーケードの榎町商店街と駅前通りであり、入れ込み客数は定点観測している。
委員	よく商店街を大事にしているように見える。茂原市は田舎にも住んでいる人がいて、住居は分散している。高齢化の影響もあり、近くで物を買いたいという志向が強い。商店街まで人を連れてくるような施策が見えない。
事務局	商店街だけをターゲットとしているわけではないが、市民バスやデマンド交通といった、交通弱者を助けるような施策は実施している。商店街の活性

化については、協力して様々なイベントを実施している。

委員

デマンド交通や市民バスは増えてきているが、利用者の行き先が商店街と
なっているのが不明。計画に記載しているため、全国の商店街の成功事例
等を参考にするなど、商店街が活性化するようにお願いしたい。

座長

商店街の位置づけは難しく、計画では「産業力の強化」という視点で位置
付けられている。ご指摘があったように、賑わいや生活の利便性を図るなど、
活性化の拠点形成の意味合いを含めて考えられたと思うが、どういった戦略
上の位置づけとするかは明確にできていない部分。今後、茂原市としての位
置づけを問われていく。また、買い物のスタイルも変わってきている。通販
で買い物をしていく時代となり、家にいても商品が届くため、ニーズも高ま
っている。その中で商店街に目を向けるとはどういうことなのか全面に押し
出していかないと、利便性一つをとってもニーズに合っていない。そういっ
たことを含めて位置づけを考えていかなければならない。

委員

資料1. 3ページ、基本目標3(1)②でインターンシップへの参加支援
について教えていただきたい。

事務局

中小企業に就職へ結びつけるため、学生を受け入れる際に1日あたり、
5,000円の補助を行う事業を創設している。

委員

実績はどうなっているか。

事務局

本市の補助を活用している事業者は1件も無い状況となっている。

委員

増やしていくための取り組みは何か実施しているか。

事務局

企業に対し制度の周知や学生に対してもPRしていきたいと思っている。

座長

参加する側と受け入れる側双方に魅力を感じるような動きをつくってい
けるかがポイントになる。参加する側が現場に入って体験できる魅力もある
が、近年のインターンシップは、働いている人達も若いアイデアを聞くこと
ができる。参加する側は提案できる、受け入れる側は新たな発想を得ていく
といった、双方向性の中でインターンシップ事業は取り組まれていく。魅力
あふれるようなインターンシップ事業を回していくと参加状況も変わって
いくと思われる。

委員

資料1. 3ページ、基本目標3(2)③で本市の認知度(1都2県)とあ
るがどこを示しているのか。

事務局

東京、神奈川、埼玉であり、計画策定前にアンケートを取り、53.3%であ
った。現在ロケツアーリズムといった映画やドラマの誘致等といった事業も実
施し茂原の名前や魅力を発信している。

委員

にいほる工業団地は全て完売されたということで、次期計画については企
業立地といった内容が含まれているのか。

事務局

総合戦略の大きな目標として、人口減少を食い止めることがある。柱とし
ては、雇用の確保は含まれてくると思う。にいほる工業団地のような大きな
事業というのは予定がないが、小中学校の統廃合や空き公共施設が増えてき
ている。そういったところに企業誘致しようとする取組がある。

委員 この地域にニーズがあるのは、圏央道が繋がっているため、5～6万坪で、工場よりはモータープールといったもの。外からくる人はメリットを考える。千葉県は、埼玉、神奈川より地価が安い。

事務局 次期総合戦略についても、企業誘致を盛り込んでいければと思う。

委員 必要な時に子どもを預けられる環境整備として、子育て支援施設の整備体制は整っていないのか。

事務局 機能を有している施設はあるが、想定しているのは市で民間事業者へ補助金を出して整備するという部分であり、実施できていない状況。

委員 病児病後児保育所の増設とあるが、もともと病児病後児保育をしている場所はあるのか。

事務局 市内だと宮本内科医院に委託し実施している。近隣だと白子町の酒井医院で実施。医者が減ってきている中で、取り組んでくれる病院がないのが実情。

委員 働く母親の立場としては、実際子どもが病気になったら仕事を休む意識が高いため利用はしないことが多いが、何かあったときに頼れる場所があるのはお守りになる。少しでも整備が進んでくれると安心して働ける。

委員 評価の合計を見ると基本目標1と3が弱い。市内大手企業によって産業が活発となってくれれば良い。駅前についても、まちづくりは大変ではあるが、駅前の広い場所が駐車場になっているのは勿体ない。人が住むような場所があると変わってくるのかなと思う。茂原公園もうまく活用することで認知度が上がっていくと良い。

事務局 駅前については、区画整理事業を実施している。完成によって賑わいを取り戻すことができれば良いと思っている。

(2) 平成30年度地方創生関連交付金の効果検証について

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

委員 「旬の里ねぎぼうず」が整備されたが、どのような事業となっているのか。

事務局 公設であり、現在指定管理者として地元の農業組合で運営している。

委員 ドローン利活用の事業を実施しているが、新しい産業を生み出すような施策で現在の進捗状況はどうなっているか。

事務局 一昨年、昨年と2年間実施したが、一昨年の実施は一般者向けの内容であり、企業向けの内容で実施していただきたいと要望があったため、昨年は企業向けで実施した。実績はないが、何かのきっかけになればと思っている。

委員 中小企業庁が主体となって実施している新しい物をつくりだす設備投資の補助金は、ドローンやIOTを使ったりといったものの採択率が高い。

座長 市内産業の競争力強化が少し弱いと感じる。生産性向上や販路拡大の実績値が低い。また、企業間のビジネスマッチングは0件である。市内事業者がどんな面的な競争力強化をしようとしているか状況を教えていただきたい。

インターンシップ事業や子育てに対する支援など、職住接近の中での取組でも関わる。市内で働くことや産業力を強化していくという部分が全体として連携が弱かったり、個々の努力が弱いと感じる。

事務局

中小企業への支援の周知が足りていない状況であり、茂原商工会議所と連携してどう周知していくか、またニーズにあった支援がどうとれるか考えていきたい。

座長

どういったニーズがあるか調査検討することは必要。商工会議所としてもセミナーを開催しても参加者がいなかったり、新しいことにチャレンジするという動きが弱いという印象がある。事業者がどう努力をしていけるか、行政もどう支援していけるかが問われてくる。

産業力強化は賑わいの話でもあり、生活することとも密接である。いきなり人口増加は難しいと思うが、子育てだけではダメだし、働くことだけでもダメであり、トータルで人生設計を考える必要がある。この地域に住むに当たって、生活がトータルで見えてこないと思われない。トータルな人生像を持ちながら、どのように戦略的に考えるのか、職住接近を強調して検討する。茂原市としてどのようなところに力を入れていくか、次の計画づくりでも検討を要する部分となってくる。

(3) 来年度以降の総合戦略について

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

委員

にはる工業団地について、茂原北インターチェンジから工業団地までの道路は今後、大型車が多く走るには広く感じない。また、工業団地からバイパスまでの間も狭く、歩道も無い状況。

今後、有効求人倍率も1を切ってくると予想している。ハローワークで就職説明会を実施していて、いつも茂原市役所の市民室を借りているが、会場に限りがあるためお断りしている企業もある。イベントをやるような施設を検討していただきたい。

事務局

道路整備については、新治小学校前まで進んでいて、茂原長柄インターチェンジについても来年開通するので、できるだけ早く完成できるよう進めていきたい。

今回皆さんからいただいた意見を参考に次期計画に含めていきたいと考えております。

委員

他の外房地区の自治体と同様で茂原市も駅前が何もない。大手チェーン店などは地価が安い所に出店する。東芝の撤退などあったが、茂原市はまだお金がある。それを踏まえて次期計画を考えていただきたい。

外房地域は今流行りの多様性からずれてしまっている。昔から住んでいる人が多く、多様性を排除してしまう。神栖市や浦安市は良い意味で混じりあ

座長

っている。様々な考えがあることで活力となっている。

今後に向けて戦略性をもっと高めていただきたい。産業力であれば土地活用を含めて大胆な取り組みや事業者間の横の繋がりによる新たな取り組みといった部分を強化していく。それから生活することをどのようにイメージ化するか、子育てだけではなく、個々がばらばらにならないようなトータルの人生設計の中で描いていく。移住定住を考えても、イメージ図を膨らませていくことが問われていく。分野別に考えがちではあるが、総合計画と一体化しても、総合戦略の部分は重点施策として力を入れる部分が見えてくるようなフレームにしてもらいたい。

浦安は何もしなくても多様性はある。浦安市長もまだつまらない街といっている。もっと多様性が増して、いろんなアイデアや動きがでてくる街にしたいと言っていた。可能性を膨らますためにも、市内外からいろんな動きをつくりだしていくことが問われてくる。その動きの中でいろんなことに気付いたり、新たな事にチャレンジしていくことになってくる。インターンシップについても市外の若者たちが茂原市の中の働き方や働く場に触れることがあっても良い。内外の動きを今まで以上につくりだしていくことが問われていく。

(4) その他について

事務局

総合戦略推進会議の組織については、総合戦略が総合計画と一体となるため、総合計画策定にあたっての審議会を立ち上げ、今後の検証については、その中で行っていきたいと考えております。そのためこの組織については今年度で終了させていただきたいと思えます。

以上